



社会福祉法人はぐるまの会

はぐるま工房の農業の紹介

- **地域作業所における10年間の農作業の取り組み**
- **福祉施設の農業における環境保全活動への取り組みと今後の展望**

平成23年9月25日

作成者

はぐるまの会

法人本部 渉外

福田 真

はぐるまの会は、養護学校を卒業した青年・成人期の知的に障がいをもつ仲間たち（利用者さん）が、力いっぱい働くための作業所と生まれ育った地域ですっと暮らしていくためのケアホームを運営している社会福祉法人です。今年で創立26年を迎えます。（1985年～）

- はぐるまの会には、4つの作業所（職場）と、ケアホーム（生活ホーム）が10か所あり、現在、43名の仲間たち（利用者さん）がいます。
- 縫製品（フキンやエプロン）づくりをしている作業所が2か所。
- 老人ホームの地域交流スペースで喫茶店を営業している作業所が1か所。
- そして農作業を日々の仕事としているのが、今回紹介させていただく、「はぐるま工房」です。

2つの縫製品作業所でのフキンやエプロン作りと喫茶店事業のようす

- はぐるま共同作業所
多摩区菅馬場



- はぐるま管工舎
多摩区中野島



- 喫茶事業「プラス・ド・フルール」

社会福祉法人

読売光と愛の事業団

よみうりランド 花ハウス内



はぐるま工房の生活



麻生区片平の「はぐるま工房」

はぐるまの作業所の中で唯一、農作業を仕事として取り組んでいます

※ 仲間たちで堆肥づくりから行う、農薬を使わない安全・安心な野菜作りに取り組んでいます。

朝の会のようす
電車通勤をしています
出勤後、全員で掃除を
済ませてから一日の
予定を確認します

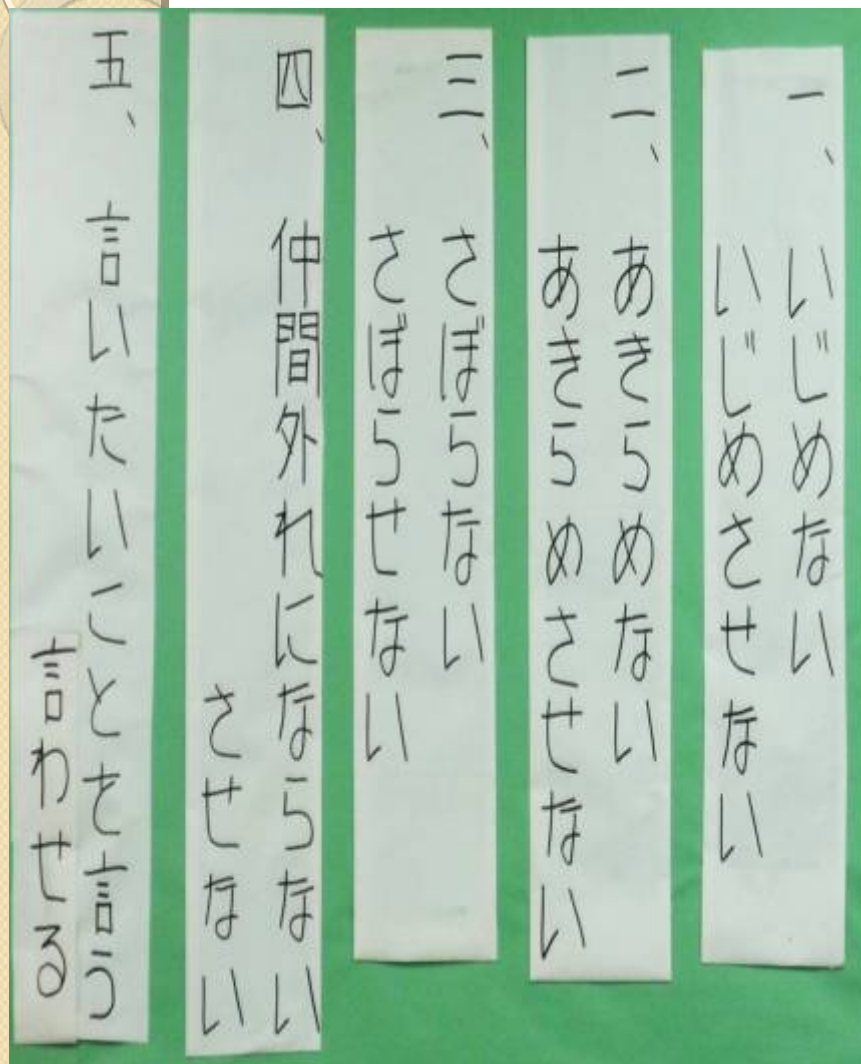
はぐるまのめざす方向

- はぐるまの会の仲間たちは、
「自分たちでやれることは、自分たちでどんどんやっていく。やれないことでも、みんなで力を合わせて、できるようにしていく」

ことを目標としています。

※そのための「5つの仲間目標」と「5つの活動」を大切にして実践を積み重ねてきました。

5つの仲間目標



5つの活動

生活のリズム

- ・ 早寝早起き 定時出勤 運動
手伝いの生活リズムの確立

運動

- ・ 脈拍130前後の運動を、毎日
30分以上継続する。(マラソ
ン)

労働

- ・ 自分たちで計画し、役割分担と目
標
を決め、相互の連帯を工夫し、集
団
労働に習熟することに努める

文化活動

- ・ 仲間の要求に基づいて、遊び、旅
行
広く地域に移動する力と、見分を
広

げる

地域活動

- ・ 販売などを通じて、地域との交流

マラソン大会のようす



朝の会の後は、毎日マラソンをします
これは元気に働き続けるための身体
づくりを目的としています
毎日、3km～10kmをそれぞれの体力
に合わせて走ったり、
ウォーキングをしています

ハケ岳登山のようす



登山では、体力と共に仲間同士の
連帯や強い精神力を養います
はぐるまの仲間たちの登山合宿
は夏の恒例行事となっています

はぐるま工房に農作業が必要となった理由

園芸療法としての

取り組みからスタートした農作業だった
(障害の重い方の為の場)

※ 土とふれあうことで主に情緒の安定
をねらっていた



今では、農作業が労働の場として無くてはならないものへ変化してきた

園芸療法 ⇒ 経済的な労働へ発展

経済的な労働 ⇒ 地域での役割の獲得へ



麻生区片平で野菜づくりをはじめてから10年の月日が流れ、農作業の位置付けに変化がありました。

当初の目的は、障害の重い方の為の情緒安定の場
(園芸療法としての農作業の役割)



障害の重さに関係なく、力いっぱい働く喜びを感じ
ることができ、今では無くてはならない労働の場
(園芸療法から生産労働の場としての扱いとなる)



《これからの展望》 農作業を福祉施設の単なる日中プログラムとしての扱いから、福祉型農業という社会的な役割の獲得を目指す。その為に必要な交流取り組みをスタートさせる。(平成21年度より)

福祉施設の農作業を通し、地域へ貢献できる活動を模索しています



麻生生きごみ隊との交流風景 (生ごみの堆肥化プロジェクト)

- 福祉施設だからこそできる、市民交流・農環境への啓蒙活動などコミュニティー型農業の拠点としての取り組みを試みる。

ダンボールコンポストとコーヒー粕

環境を考え行動する会様より

ご紹介を受け、野菜クズや給食残渣を利用してダンボールコンポストで生ごみ肥料をつくっています。現在、4世代目となります。

コーヒー粕（コンポスト基材に使用）も、モスバーガー五月台店様より無料でご提供を頂いています。

生ごみ肥料の実力

富士通川崎工場様より、ご提供いただいている「のびのびグリーンたい肥」



はぐるまの農業活動を応援していただいています

麻生区区民会議委員の方のご紹介により、22年度より富士通川崎工場の食堂より出る食品残渣を加熱処理して一次発酵させた「のびのびグリーンたい肥」を毎月50kg(年間600kg)ご提供いただいております。

立派な肥料をいただけるようになりましたので、立派な野菜をつくり「富士通」様の環境保全・地域貢献活動を広くアピールしていきたいと思ひます。

新あさお生きごみ隊様からご提供いただいた「生ごみたい肥」



麻生区の学校や協力者さんの生ごみを回収して作った「生ごみたい肥」も毎年提供していただいております。お礼に、はぐるま工房の仲間達でたい肥の切り返しや混ぜ込み作業のお手伝いを行っています。支援していただくばかりではなく、お互いに役立てる交流を目指していきたいと考えております。

※ 別紙に収穫野菜写真があります。

生ごみ肥料で作った夏野菜たち



生ごみ肥料のおかげで収穫できる作物が大幅に増えました！（今年の夏野菜は、大豊作でした）



今年度より、川崎市経済局農業振興センターから新しい福祉農業モデル事業として、麻生区早野地区でハーブ栽培を開始しました。10月よりハーブ見本園に「生ごみ肥料」を活用し地域へのアピールをしていく予定です。（早野聖地公園入口看板のある畑です）



福祉施設だからこそできる活動 都市部での「農環境」づくりを目標とする

福祉の立場だからこそ強みを発揮できる活動を生かす

《損得を抜きにした活動ができる恵まれた立場を利用しての活動》

- 「農のある地域（農環境）づくり」を目標の中心にできる
生ごみ肥料化への取り組み、活動への参加・協力等

※ご協力いただいている団体様や企業様の環境保全に対する
取り組みのアピール

- 食育や環境学習のプログラムへの取り組み

現在は近隣の高校の総合学習の場として生徒を受け入れています

- 販売だけを目的としない農地の活用（市民交流や啓蒙活動）
- 今まで環境保全活動や農業に興味が無かった人達にも、福祉施設としての立場から積極的にアピールし、環境保全活動・農業等に巻き込んでいく事を今後の目標としていきます。

本日は、誠にありがとうございました。
社会福祉法人はぐるまの会 はぐるま工房
麻生区片平1848-5

